

ベストセラー作品のタイトルにおけるワードペア

青 木 繁 博

Word Pairs in Bestseller Titles

Shigehiro Aoki

1. はじめに

筆者は長年「ワードペア」([A and B] の型を持つ英語並列表現) を研究してきたが、ワードペアはいわゆる文学作品に見られるだけでなく日常的な場面にも散見され、またいくつかの文脈ではかなり頻出することに気付き、日常言語におけるワードペアの使用状況を調査する必要性を強く感じるようになった。本論文はその一環として、20世紀アメリカのベストセラー作品のタイトルにおけるワードペアに関する調査を行った。本論文は周縁的な言語事象の研究ではあるが、そこに見られるワードペアの傾向などを記述することを通じて、ワードペアがいかに広範に用いられているかといった点を改めて明らかにできればと考える。また、過去に研究した口語表現 (rhyming slang、スピーチ、慣用表現) に見られたワードペアの特徴などと比較することで、口語表現の全般におけるワードペアの総括的な研究へとつながる基盤が得られればと展望するものである。

2. 本論文における研究対象

2. 1. ワードペアとは

青木 (2016a) 以降、「[A and B] をプロトタイプとし、その周辺にゆるやかに集まる集合体である」と筆者が考えるワードペアは、andなどの等位接続詞で結び付けられたものと定義付けられることも多い。こういった表現は古英語から現代英語に至る英語の歴史を通じて用いられており、多くの機能を持ち、時代により、また異なる文脈において様々な役割を果たすものであるとする研究が広く進められてきた。中でも中英語期のワードペアに関する研究では、チャプマン作品などの高尚な文体に特徴的に見られる点 (谷 2003, 2008) や、その時期のキリスト教文学全般に用いられ、それらの文体の形成に寄与している点 (Katami, Wilson, Stone) などが指摘されている。

現代英語のワードペアについては、むしろ慣用句・定型表現としての諸表現が研究対象となる場合が多い。それらは必ずしも新奇な表現ではなく、時には使い古されたものであるかのように語られるケースもない訳ではない。しかし現代英語でも、ワードペア表現が使われること自体は頻度としては決して無視できないものと考えられる。また、前述のように高尚な文体の形成へと積極的な役割を果たしてい

た様相もある中英語期以前のワードペアと比べて、現代英語のワードペアはどのような点で相違があるか、あるいは連続性が見られるかといったことについては、今後の研究課題として残されていると考えられる。

2.2. ベストセラーとは

日常的に用いられる言葉「ベストセラー」だが、きちんとした定義付けを考えたときには難しい問題も含まれるようである。例えばWikipedia（英語版）の“List of best-selling books”¹に見られる作品の中には、*Don Quixote* や *A Tale of Two Cities* など、常識的に見て「名作」「古典」というべき作品なども含まれており、それらを「ベストセラー」と呼ぶには若干の違和感を感じるであろう。単に売れているかどうかとは異なる何らかの基準をもって私たちはこれを捉えているのではないだろうか。

この点に関して、Sutherlandでは、ベストセラーは多くの場合は小説（フィクション）を指すことや、一番多く売れたというよりは「より多く」売れたものであること（‘better sellers’ といった言い方も）、またトータルで多く売れたというよりは一定の期間の中で早く売れたものといった見方もある、など論じられている（pp.17-18）。

さらに、それほど売れていなくても「ベストセラー」と呼ぶ宣伝文句の類（一種の商業的な利用）なども含めると、このようにベストセラーとは何かという点については、大まかには捉えられる反面、厳密な線引きをするには難しいところもあることがわかった。

3. 調査の進め方など

3.1. 資 料

本論文で資料とするのは、John Unsworthが20世紀アメリカのベストセラーについて学生と共に研究したことを発表しているサイトである²。そこでは1900年から1999年までの1年ごとのベストセラー上位作品がリストアップされている。なおほとんどが1位から10位までだが、年によって9位まで、15位まで、25位までといったケースがある。

リストを見渡すと、20世紀前半には今の感覚からすれば古典的な作品名が、また後半には人気のあるジャンル小説の作品名が多く見られる感もあるが、前述した観点すなわちベストセラーにはある種の曖昧性が認められる点を考慮して、特に区別・選別することはせず、それらのタイトル全般に見られる特徴およびその中にあるワードペアの特徴を記述し考察を進めることとする。

なお当該のサイトは前述のSutherlandでも紹介されているが、そのときの紹介内容と現状（2018年2月時点）ではいくつかの相違点がある。まずアドレスが変更となっており、今はUniversity of Virginiaのサイト内に置かれている。また以前はNon-Fictionの作品も扱っていたようだが、現時点ではそれについては閲覧できず、Fictionの作品のみがリストとして提供されている。

3.2. 調査する範囲・内容など

上述のUnsworthのサイトを参照し、挙げられているベストセラー作品の全タイトルをまとめ、その中に接続詞andを用いた表現がどのように見られるかを調査した。ワードペアに該当すると考えられる

¹ https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_best-selling_books

² <http://bestsellers.lib.virginia.edu/>

例は本論文末尾の一覧に示す通りである。

一覧の中にはそのタイトルがワードペアかどうかには異論が出るものも含まれているかもしれない。特に、*D'ri and I* や *Mr. and Mrs. Cugat* などの登場人物と思しき人名が用いられたタイトルに対しては疑問を持たれる向きも多いであろう。しかし青木（2016b）では、*Ozzie and Harriet* や *Box and Cox* など、当初は特定の作品に登場する人名の組み合わせだったが、それが次第に一般的な名詞として使われるようになり *OED Online* の見出しにもなっているという例を示した。固有名詞かどうかという点については必ずしもワードペアかそうでないかを分ける境界とは限らないと考えられる。この観点から、本論文では、やや微妙な例も含めてワードペア形式の表現として分類を進めることとしている。

4. 調査結果および考察

4.1. ベストセラー作品のタイトルとそこに見られるワードペアの傾向

当該サイトの全体で提示されているのは1,121項目、そのうちワードペア形式は49項目が認められるが、この中には重複（複数年に渡って2回以上ランクに入っている作品）が見られるため、作品の数およびペアの数としてはこれを下回ることになる。重複を除外すると、当該サイトで提示されている作品は1,032タイトルあり、そのうちワードペア形式のタイトルは44個が確認される（4.26%）。こうして見ると割合としては少ないようにも思われるが、全作品中で多くを占めていたのは1語または2語のタイトルで、合わせて458個あった³。ワードペアは接続詞を含めて少なくとも3語が必要であり、ハイフン付きの1例（*Richard Yea-and-Nay*, 1901年）を除き、1語または2語のタイトルではその形式が使われる可能性は元々ないことになる。この点を踏まえて、3語以上の例に限っての割合を見た場合、3語以上のタイトル574個のうち43個がワードペア形式に該当している（7.49%）。これは概ね13タイトルのうち1つがワードペア形式だということになる。

ワードペア形式かどうかに関わらず、作品タイトルではandの使用頻度自体がかなり高いようである。表1で示すように、本論文の研究対象の範囲においては、theやofには及ばないが、aなどを上回る数のandが確認された⁴。

表1：作品タイトルで多く使われている語、上位5ワード

word	count
the	510
of	157
and	48
a	40
in	31

“&”を含む。

³ 短いタイトルについては、1語（*Accident*, *Airframe*, *Airport*など）、2語（*After Noon*, *All Kneeling*, *Ancient Evenings*など）の例が多数見られる。逆に長いものは、10語（*Scarlett: The Sequel to Margaret Mitchell's "Gone with the Wind"*）、11語（*The Greek Treasure: A Biographical Novel of Henry and Sophia Schliemann*）、12語（*Fanny, Being the True History of the Adventures of Fanny Hackabout Jones*など3例）がある。長いものはほとんどがサブタイトルを含むものであり、厳密に言ってタイトルが長いかどうかには疑問も残るが、本論文では資料としたサイトでの記載に従うこととした。なお全タイトルの語数の平均値はおおよそ2.93語であった。

⁴ 単語リストの作成および語数のカウントにはKWIC Concordance 5.1を使用し、適宜調整・作表を行った。
http://dep.chs.nihon-u.ac.jp/english_lang/tukamoto/kwic.html

次に、ワードペア形式のタイトルが年代を通じてどのように見られたかを示すのが表2である。ここでは1960年代の割合が大きい、これは *Advise and Consent* (1959年からの継続、1960年)、*The Agony and the Ecstasy* (1961年および1962年)、*Franny and Zooey* (1961年および1962年) と複数年に渡ってランクに入った例が多かったことが主な要因ではないかと推測される。この点を除けば、突出した年代もなく、特段に途切れている時期もなく、ワードペア形式のタイトルはコンスタントに使われていると見受けられる。

表2：ワードペア形式のタイトル、年代ごとの分布

年代	'00	'10	'20	'30	'40	'50	'60	'70	'80	'90	合計
ペアの数*	3	3	4	6	4	6	9	3	6	5	49
全体の数*	100	100	101	100	100	100	99	110	150	161	1121
割合	3.00%	3.00%	3.96%	6.00%	4.00%	6.00%	9.09%	2.73%	4.00%	3.11%	4.37%

*ペアの数、全体の数はともに累計。同一作品が複数年に渡ってランクに入っている場合がある。

4. 2. 他の口語表現に見られるワードペアの特徴との比較

もちろんワードペアそのものには多様な面が存在するのだが、ここでは主に4つの側面からベストセラー作品のタイトルに見られるワードペアを読み解きたいと考える。これらの点は口語表現におけるワードペア全般にもあてはまるが、作品タイトルの場合、1つのタイトルの中でこれらが複合的に作用することで効果を生み出していることが多いと考えられる。

- 1) 韻（特に頭韻）の使用
- 2) 対比あるいは意外な組み合わせ
- 3) 既存の表現の利用
- 4) 過去の例（先行する作品名等）への言及

4. 2. 1. 韻（特に頭韻）の使用

まず韻についてだが、ワードペアと韻との関係についてはしばしば言及されることではある。例えば青木（2017）で扱ったrhyming slangの中にも、当該の表現が指す事物との間で脚韻を踏んでいることに加えて、場合によってはそれ自体がtwist-and-twirl (=girl)、[old] pot and pan (=old man) というように頭韻が用いられている例が見られることがあった。

本論文の調査においても、頭韻が用いられたワードペア形式のタイトルは複数見られた (*Sorrell and Son*, *Of Mice and Men*, *The Forest and the Fort*, *Preserve and Protect* など)。いわゆる語呂の良さは、それだけでフィクション作品のタイトルとしては印象的なものであろう。

4. 2. 2. 対比あるいは意外な組み合わせ

反意語などの対照的な2語を並べる表現そのものは、作品タイトルに限らずワードペア全般で見られるものである。その中でも、今回の例で言えば *The Just and the Unjust* などはその点が典型的に表れたものと考えられる。

Sermons and Soda-Water は、頭韻的でもあるが、音が揃った2つの語が意味としてはやや意外な組み合わせだという点でさらに趣向を凝らしたものと考えられる。完全に対照となる反意語ではなく、対

比の軸を少しずらしたかのような表現になっている点が特徴的である。

4.2.3. 既存の表現の利用

現代英語で広く慣用句として使われている表現を(この場合)敢えて使っているようなタイトルも多々見られる。*To Have and To Hold*, *The High and the Mighty*, *Time and Time Again*, *North and South*, *Heaven and Hell*, *Morning, Noon, and Night*, *Cat & Mouse* など。それぞれの表現自体は英語話者にとっては馴染みのあるものであろうが、その身近さと作品内容との間にあるギャップを感じさせることを狙っているケースも多いのではないかと推測される。

また、*Old Wine and New*, *Come and Get It*, *Earth and High Heaven* (下線は筆者) は、大枠としてはよく見られる組み合わせや言い回しを使いながらも、別の語を加えることでオリジナルなタイトルとして成立していると捉えられるであろう。この点については次の項と共通する部分もあるかもしれない。

4.2.4. 過去の例(先行する作品名等)への言及

過去の例への言及に関しては、青木(2013)で扱ったようなスピーチにおいては、既に存在する表現そのものや先人が使ったフレーズそのままではなく、それを一部改変して使うといった例が見られることがあった。これらは、今までになかった語句の組み合わせという点では新しいペアだが、別のペアを基盤に置いて作られており、また読み取る側もそのことを想起し、ある種の既視感を得るという点で特色があると考えられる。

これに該当する例としては、*War and Remembrance*, *Love and War*, *The Klone and I* などが挙げられる。前二者は *War and Peace* といったタイトル(あるいは表現)との関連性が指摘できると思われ、最後の例については *The King and I* という大変有名な作品のタイトルが念頭にありと推測される。

また *The Life and Hard Times of Heidi Abromowitz* といったタイトルは、これが仮に伝記などであれば比較的直接的な名付けが行われたとされるであろうが、そうではなくフィクション作品のタイトルだという点に留意するならば、素直には受け取れないものであろう。別のジャンルによく見られるようなタイトルを「なぞる」ことによる効果を狙ったものと考えられる。

5. むすび

作品タイトルとは実は「作者不詳」なのかもしれない。作家本人だけでなく、編集者や出版者などの関係者によって命名・改変される可能性があり、誰か特定の人物の言葉遣いを反映しているとは限らないというケースが常に想定される。また当然、通常の文とは異なった作成ルールに基づくものと考えられ、言語使用の場面としては特殊な例の一つと捉えられるであろう。しかしながら、そういった場面においてもまとまった数のワードペアが見られることは、それ自体がワードペアが現代英語でも幅広く用いられていることの証拠になるとは言えないだろうか。本論文の調査で示されたように、アメリカのベストセラー作品のタイトルに限って言えば、ワードペアは20世紀を通じてコンスタントに使われており、長い空白期間が存在したり、時代が下るにつれて使われなくなるといった事象は認められなかった。現代英語以前のワードペアの機能・役割と全く同じではないかもしれないが、ワードペアは今も一定の役割を果たしていると結論付けられるのではないだろうか。

参考・参考文献

- 青木繁博「英国王ジョージ6世のスピーチにおけるワードペアの劇的效果」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』43 (2013): 7-20.
- 一、「中英語散文におけるワードペアとメタファー：認知言語学的アプローチ」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』44 (2014): 1-8.
- 一、「特定の文学ジャンルにおける中英語ワードペアのヴァリエーション」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』45 (2015): 45-55.
- 一、「英語ワードペア表現の5つのタイプと意味変化」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』46 (2016a): 79-88.
- 一、「bread and butterの意味消失：慣用的な英語並列表現が意味変化するプロセスについて」『日本認知言語学会論文集』16 (2016b): 453-458.
- 一、「Rhyming Slangとワードペア」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』47 (2017): 85-96.
- Cooper, William E., and John Robert Ross. "World Order." *Papers from the Parasession on Functionalism*. Eds. Robin E. Grossman, L. James San, Timothy J. Vance. Chicago Linguistic Society, 1975. 63-111.
- Gustafsson, Marita. *Binomial Expressions in Present-Day English: A Syntactic and Semantic Study*. Turku: Turun Yliopisto, 1975.
- 一, "The Syntactic Features of Binomial Expressions in Legal English." *Text* 4 (1984): 123-141.
- Katami, Akio. "Word Pairs in Middle English Mystic Prose of the Fourteenth Century." 『埼玉学園大学紀要』経営学部篇 第9号 (2009): 177-189.
- Kikuchi, Kiyoaki. "Repetition in *The Owl and the Nightingale*." 日本英文学会 Studies in English literature (1986): 17-38.
- Koskenniemi, Inna. *Repetitive Word Pairs in Old and Early Middle English Prose*. Turku: Turun Yliopisto, 1968.
- 一, "On the use of repetitive word pairs and related Patterns in *The Book of Margery Kempe*." *Style and Text: Studies Presented to Nils Erik Enkvist*. Ed. Hakan Ringbom. Stockholm: Sprakforlaget Skriptor AB, 1975. 212-218.
- 一, "Semantic Assimilation in Middle English Binomials." *Studies in Classical and Modern Philology: Presented to Y. M. Biese on the Occasion of his Eightieth Birthday, 4.1.1983*. Eds. Iiro Kajanto, et al. Helsinki: Suomalainen Tiedekatemia, 1983. 77-84.
- Leisi, Ernst. *Die tautologischen Wortpaare in Caxton's "Eneydos"*. New York: Hafner, 1947.
- Malkiel, Yakov. "Studies in Irreversible Binomials." *Lingua* 8 (1959): 113-160.
- Miwa, Nobuharu and Su Dan Li (2003) "On the Repetitive Word-Pairs in English -With Special Reference to W. Caxton-." 『鹿児島大学法文学部紀要 人文科学論集』58 (2003): 49-66.
- Mollin, Sandra. "Revisiting Binomial Order in English: Ordering Constraints and Reversibility." *English Language and Linguistics* 16.01 (2012): 81-103.
- 一, *The (Ir)reversibility of English Binomials: Corpus, Constraints, Developments*. Studies in Corpus Linguistics 64. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company, 2014.
- Stone, Robert Karl. *Middle English Prose Style: Margery Kempe and Julian of Norwich*. The Hague: Mouton, 1970.
- 須部宗生「語順固定の英語対句表現の一考察」『静岡産業大学国際情報学部研究紀要』第1号 (1999): 39-68.
- Sutherland, John. *Bestsellers: A Very Short Introduction*. New York: Oxford University Press, 2007.
- 谷明信「初期中英語the 'Wooing Group' のWord Pairsの用法とその特徴」『兵庫教育大学研究紀要』第23巻 第2分冊 (2003): 19-24.
- 一, 「Chaucer の散文作品におけるワードペア使用」『ことばの響き—英語フィロロジーと言語学—』今井光規・西村秀夫(編). 東京: 開文社, 2008. 89-116.

渡辺秀樹「同意語並列構文の系譜」『英語青年』140.6 (1994年9月号): 285-287.

Wilson, R. M. "Three Middle English Mystics." *Essays and Studies*. New Series 9 (1956): 87-112.

Yamaguchi, Hideo. "A Study of the *Book of Margery Kempe*." 『神戸女学院大学論集』第18巻 第1号(1971): 1-44.

Online Resources

20th-Century American Bestsellers. <http://bestsellers.lib.virginia.edu/> [アクセス日: 2018年2月1日]

《ワードペア形式の作品タイトル一覧》

年*	タイトル	著者名
1900	<i>To Have and To Hold</i>	Johnston, Mary
1901	<i>Richard Yea-and-Nay</i>	Hewlett, Maurice
1901	<i>D'ri and I</i>	Bacheller, Irving
1912	<i>The Just and the Unjust</i>	Kester, Vaughan
1916	<i>Life and Gabriella</i>	Glasgow, Ellen
1919	<i>Christopher and Columbus</i>	"Elizabeth"
1920	<i>Harriet and the Piper</i>	Norris, Kathleen
1926, 27	<i>Sorrell and Son</i>	Deeping, Warwick
1929	<i>Joseph and His Brethren</i>	Freeman, H. W.
1932	<i>Old Wine and New</i>	Deeping, Warwick
1935	<i>Of Time and the River</i>	Wolfe, Thomas
1935	<i>Come and Get It</i>	Ferber, Edna
1937	<i>Of Mice and Men</i>	Steinbeck, John
1938, 39	<i>All This, and Heaven Too</i>	Field, Rachel
1941	<i>Mr. and Mrs. Cugat</i>	Rorick, Isabel Scott
1943	<i>The Forest and the Fort</i>	Allen, Hervey
1945	<i>Earth and High Heaven</i>	Graham, Gwethalyn
1948	<i>The Naked and the Dead</i>	Mailer, Norman
1950	<i>Across the River and into the Trees</i>	Hemingway, Ernest
1952	<i>The Old Man and the Sea</i>	Hemingway, Ernest
1953	<i>The High and the Mighty</i>	Gann, Ernest K.
1953	<i>Time and Time Again</i>	Hilton, James
1959, 60	<i>Advise and Consent</i>	Drury, Allen
1959	<i>Dear and Glorious Physician</i>	Caldwell, Taylor
1960	<i>Sermons and Soda-Water</i>	O'Hara, John
1961, 62	<i>The Agony and the Ecstasy</i>	Stone, Irving
1961, 62	<i>Franny and Zooey</i>	Salinger, J. D.
1963	<i>Raise High the Roof Beam, Carpenters, and Seymour--An Introduction</i>	Salinger, J. D.
1963	<i>Grandmother and the Priests</i>	Caldwell, Taylor
1968	<i>Preserve and Protect</i>	Drury, Allen
1972	<i>Captains and the Kings</i>	Caldwell, Taylor
1975	<i>The Greek Treasure: A Biographical Novel of Henry and Sophia Schliemann</i>	Stone, Irving
1978	<i>War and Remembrance</i>	Wouk, Herman
1982	<i>North and South</i>	Jakes, John
1984	<i>Love and War</i>	Jakes, John
1984	<i>The Life and Hard Times of Heidi Abromowitz</i>	Rivers, Joan
1987	<i>Heaven and Hell</i>	Jakes, John
1989	<i>Clear and Present Danger</i>	Clancy, Tom
1989	<i>Jimmy Stewart and His Poems</i>	Stewart, Jimmy
1993	<i>Nightmares and Dreamscapes</i>	King, Stephen
1995	<i>Morning, Noon, and Night</i>	Sheldon, Sidney
1997	<i>Harry Potter and the Sorcerer's Stone</i>	Rowling, JK
1997	<i>Cat & Mouse</i>	Patterson, James
1998	<i>The Klone and I</i>	Steel, Danielle

* 「年」 は出版年ではなくランキングに現れた年を指す。